

安芸薬薬連携研修会 保険薬剤師アンケート報告

2019年11月7日（木）

第22回 安芸薬薬連携研修会

アンケート調査の目的について

- 現在、院外処方箋に患者さんの血液検査値を記載する医療機関が増えています。医薬連携のさまざまな取り組みの中でも、処方箋への検査値情報が開示されたことで保険薬局においても、安全性の高い薬剤処方鑑査が可能となっています。
- 広島県内でもいち早く、マツダ病院では、2015年10月の臨床検査値の添付を開始されており、検査値情報開示実施より4年が経過しました。
- 今回、保険薬局における検査値の活用状況及びプレアボイド事例についてアンケート調査を実施したので、その結果について報告する

マツダ病院では2015年10月より地域保険薬局の連携の一環として、患者さんの検査値の一部について、処方鑑査に必要な情報を院外処方箋に添付されております。検査値添付の開始より4年を経過しましたところで、保険薬局における検査値の活用状況及び、プレアポイド事例についてアンケート調査を実施し、今後の薬薬連携に役立てたいと考えています。ご理解ご協力のほど宜しくお願い致します。

(一社)安芸薬剤師会
マツダ病院薬剤部

- 1・薬剤師経験年数を教えてください 年 月 日
- 2・調剤を行うにあたり、処方された医薬品に添付文書等で臨床検査値関連項目の有無を確認していますか (最も近いもので、一つ選択)
- 毎回必ず確認している 必要に応じて確認している
 あまり確認していない ほとんど確認していない
- 3・患者の検査値情報について、どのような手段で情報入手を行っていますか (複数回答可)
- 処方箋発行元に電話等で確認 患者さんに確認 (血液検査値結果等を持っている場合)
 処方箋添付の検査値で確認 HM ネット等の公開情報で確認
 積極的には入手をしていない
 その他 ()
- 4・検査値を活用した薬剤服用歴管理、服薬指導を行っていますか (行った事はありますか) (最も近いもので、一つ選択)
- 検査値異常有無に関係なく積極的に行う 検査値に異常があった場合に行う
 患者からの求めがあった場合に行う あまり行わない 行ったことはない
- 5・検査値を活用した薬剤服用歴管理は薬局薬剤師としてどのような利点を感じますか (自由記載)
-
- 6・マツダ病院の院外処方箋には、患者の検査値が添付されている事をご存じですか
- 知っており、既に活用している 知っている 知らなかった
- 7・処方箋添付の検査値に基づいて、疑義照会をおこなっていますか (行った事はありますか)
- いる (ある) ない

- 8・臨床検査値に基づく疑義照会や薬歴管理により患者のプレアポイド*につながった経験はありますか
- ある ない
- 9・公益財団法人日本医療機能評価機構では、プレアポイド事例を収集していることを知っていますか
- 知っており、プレアポイド事例報告をしている
 知っているが、プレアポイド事例報告をしたことはない
 知らなかった

10・プレアポイド事例で印象にのこっている事例があれば教えてください (自由記載・複数回答可)

11・処方箋への臨床検査値添付について、問題点・疑問点・要望等があれば教えてください (自由記載)

*プレアポイドとは、Prevent and avoid the adverse drug reaction (薬による有害事象を防止・回避する) という言葉を基にした造語で、「薬剤師が患者の薬による不利益を回避・軽減・防止した事例」の事です。

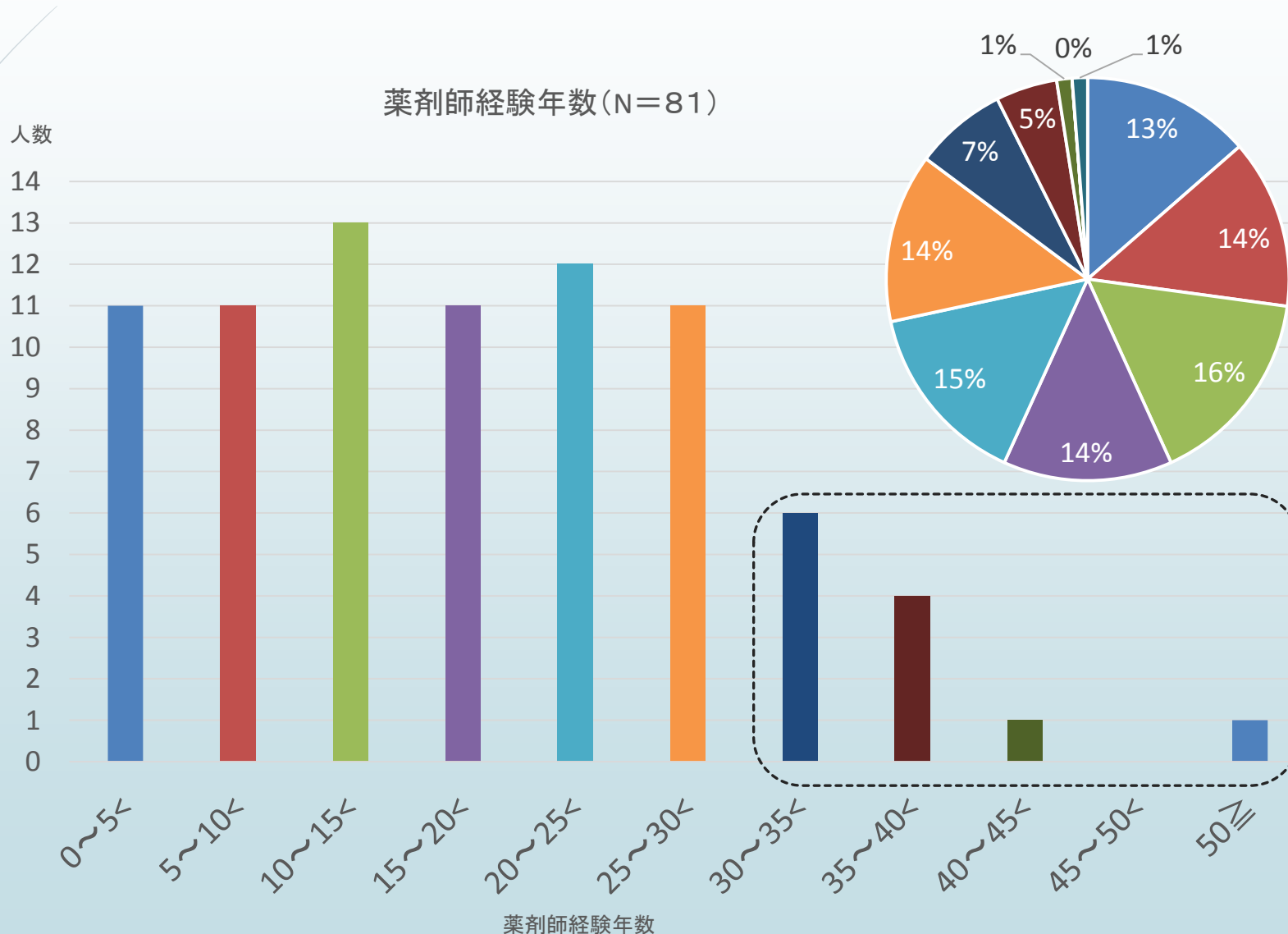
ご協力ありがとうございました

- ◆アンケートの回答は、薬剤師1名ごとにお願致します。
- ◆アンケート提出先 安芸薬剤師会事務局 FAXにて
FAX 082-282-4468
- ◆アンケート提出期限 令和元年 10月10日(木) 終日

今回のアンケートの結果については、令和元年11月7日実施の「第22回安芸薬薬連携研修会」にてご報告させていただきます。
なお、アンケート回答から、薬剤師個人の特定及び患者の特定につながらないように留意して取扱い致します。

Q1

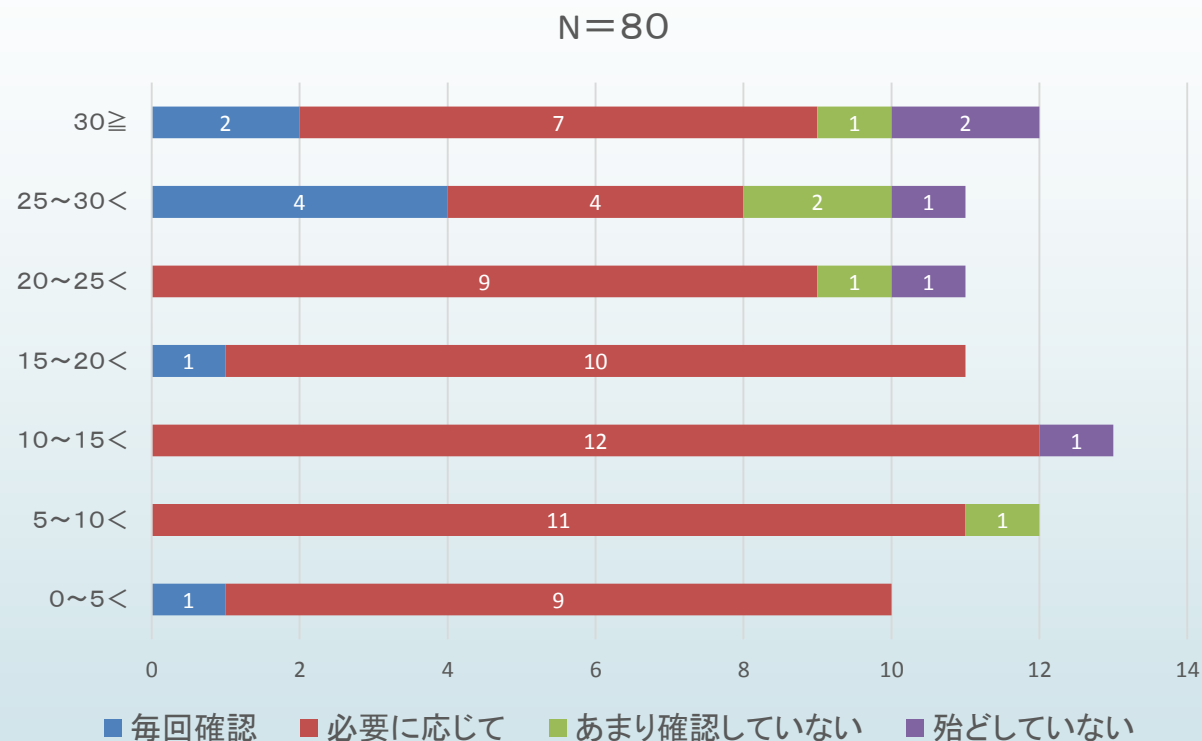
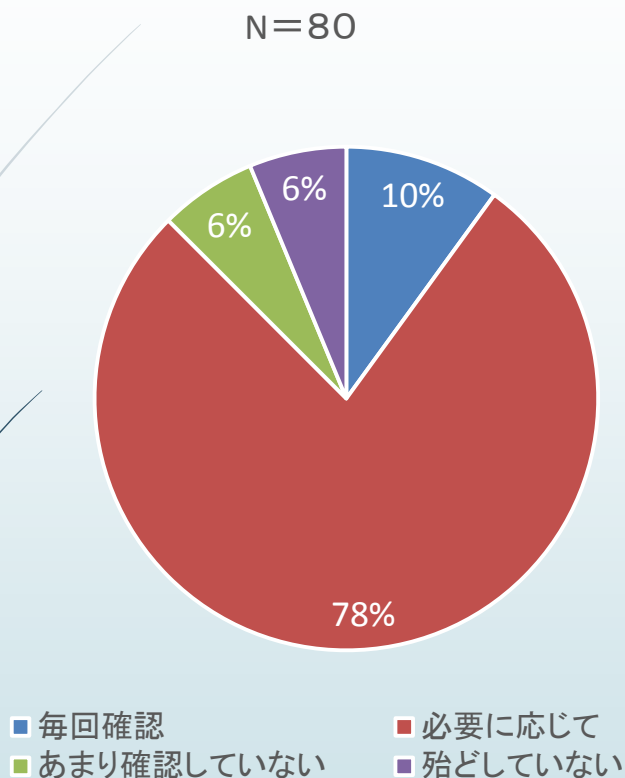
アンケートに回答していただいた 保険薬局薬剤師の薬剤師経験年数について



30年以上を
1グループとして
回答を集計

Q2

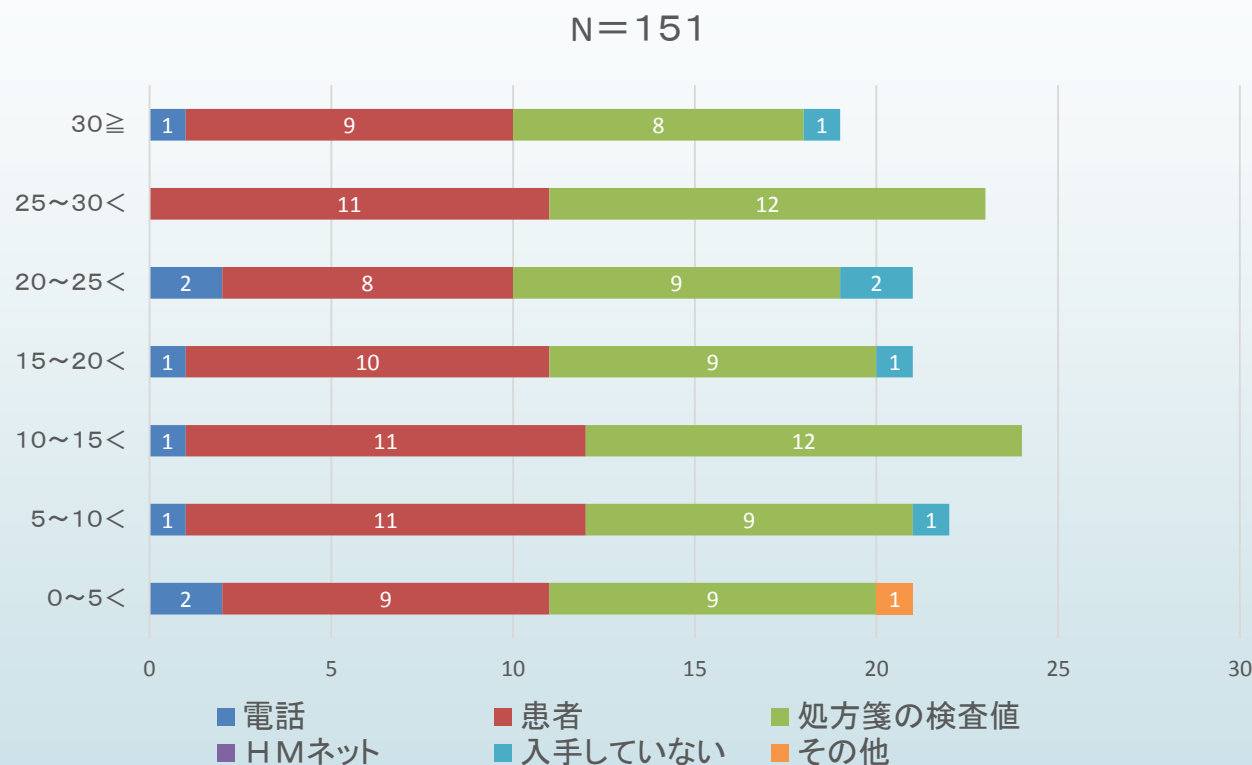
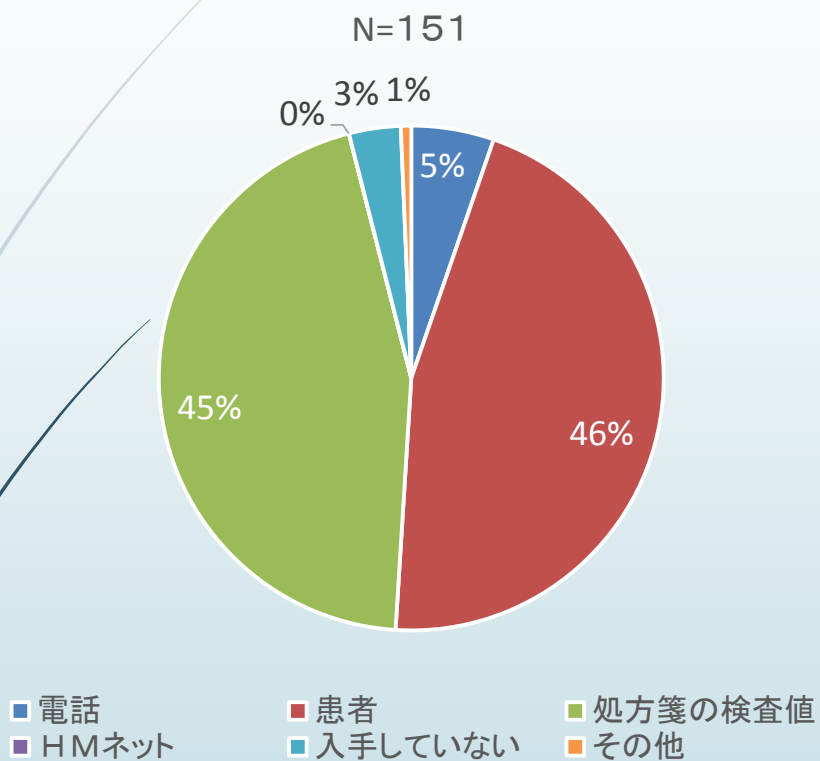
調剤を行うにあたり、処方された医薬品に添付文書等で臨床検査値関連項目の有無を確認していますか？



9割近い保険薬局薬剤師が、処方薬に関する「検査値項目」を添付文書等で確認する
 特に、経験年数の若い薬剤師ほど、しっかりと処方薬の情報を確認して調剤を行う傾向にある

Q3

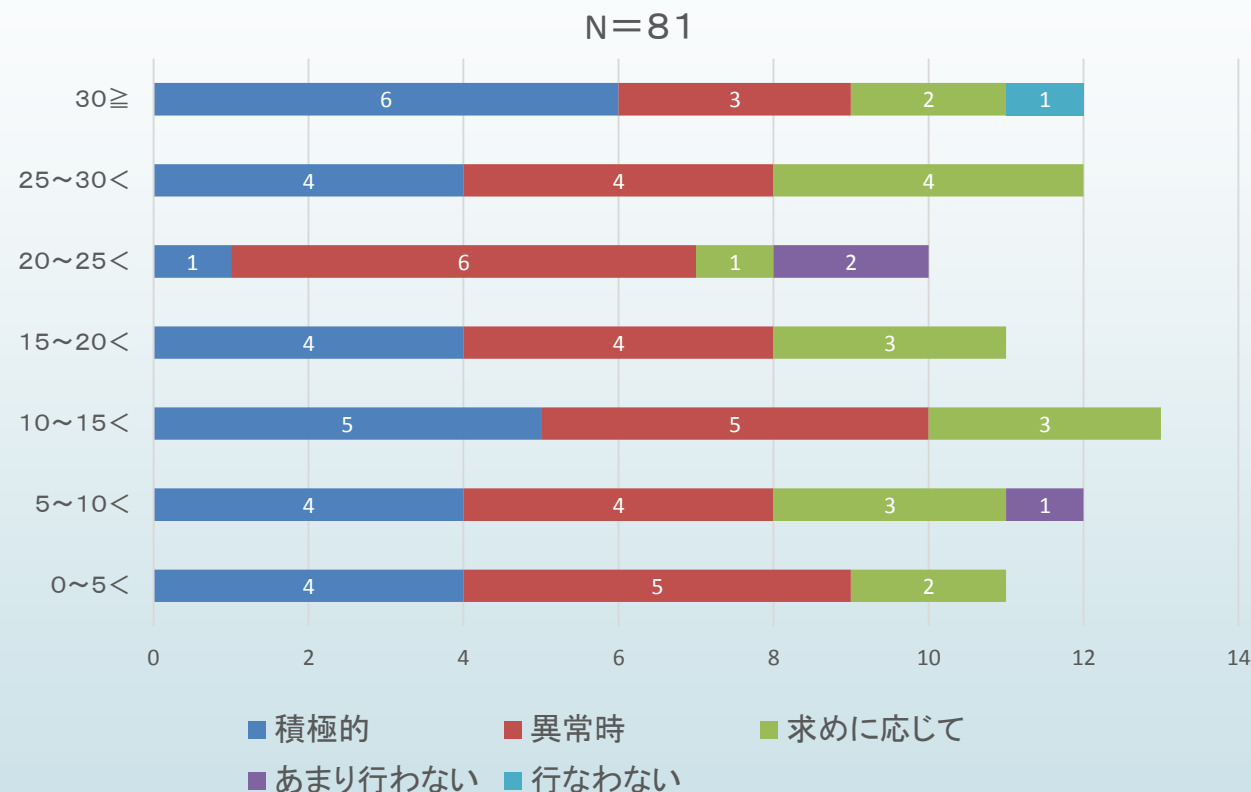
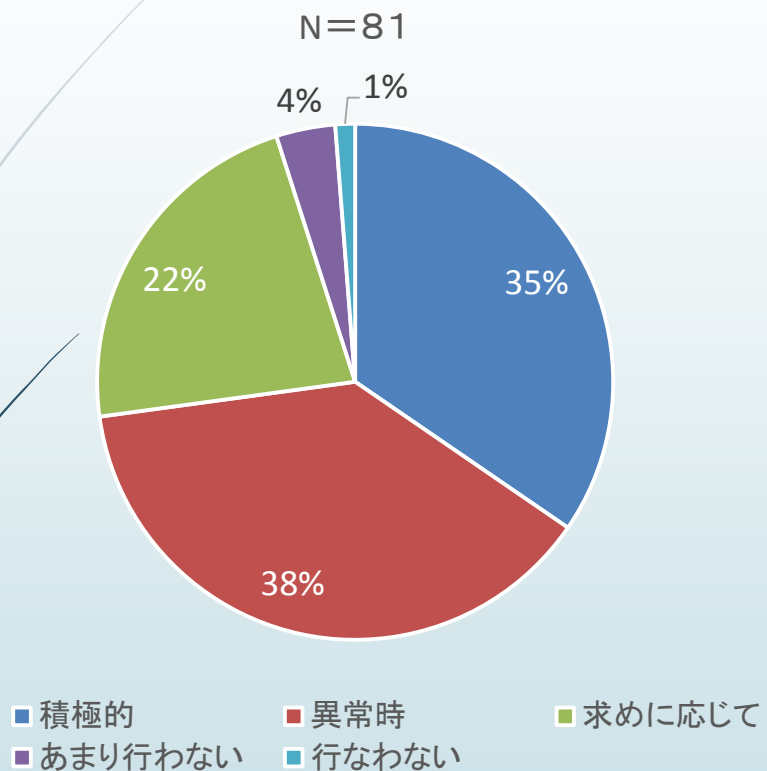
患者の検査値情報について、どのような手段情報入手を行っていますか？（複数回答可）



患者検査値情報の入手先としては、患者が持参する「検査結果表」と処方箋の検査値で9割
 処方箋に添付された臨床検査値は、非常に重要な情報入手源となっていることが伺える
 処方箋発行元に電話で確認するケースもある中で、HMネット活用は今後の課題

Q4

検査値を活用した薬剤服用歴管理、服薬指導を行っていますか（行った事はありませんか）？



検査値を活用した薬歴管理、服薬指導を行う保険薬剤師はほぼ全員が行っている。

Q5-1

検査値を活用した薬剤服用歴は薬局薬剤師としてどのような利点を感じますか？

- ▶ 患者の薬に対しての思い、生活環境等幅広い角度から投薬指導ができる
- ▶ 患者様の利益につながる
- ▶ 医者に聞けないことも相談しやすい
- ▶ 肝・腎機能の確認
- ▶ 検査値があれば用法用量が適切か確認できる
- ▶ 副作用、投薬量の確認に利点を感じる
- ▶ 患者よりいろいろ話を聞いだせなくても検査値を確認するだけで患者の状態がわかるし、問題のある点についてすぐに確認できる。
- ▶ 患者からも信頼を得ることができると思う。コレステロール、中性脂肪γ-G Tの値は生活習慣について指導できる
- ▶ 食事や運動などの患者の日常生活を話すきっかけになる。
- ▶ 服薬状況のチェックに生かしています。
- ▶ 腎機能・肝機能を確認できれば薬の用量変更があった時など理由を予測できやすい
- ▶ 禁忌慎重投与などチェックに役立つ。用量調整が必要な薬剤の投与量の検討に役立つ
- ▶ 患者様に聞く耳を持ってもらいやすい
- ▶ 正確が増す
- ▶ 主観ではなく客観的に判断できる

Q5-2

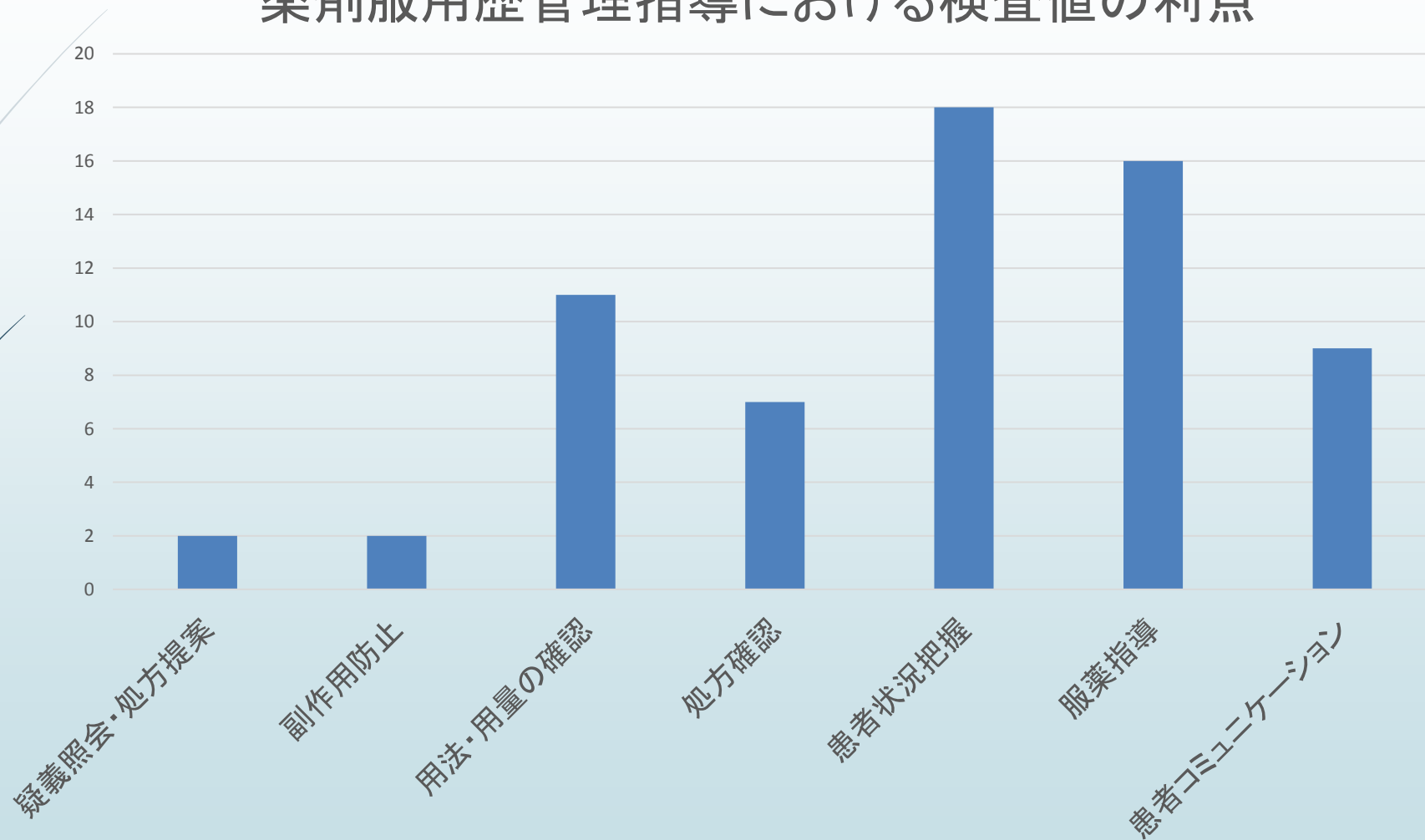
- 処方変更の根拠を説明するのに役立つ。内服効果を理論的に説明し、服薬意欲を向上する効果あり
- 患者さんとのコミュニケーションをとる手段にもなる
- 処方薬の効果副作用の確認ができる。検査値によって栄養面のアドバイスができる。
- 腎機能から他の病院や診療所の処方があった時に用量のチェックができる
- 貴院の検査値より適切な用量の変更提案ができた
- 良くて悪くても話題にするともっと詳しい検査値の表を見せてくれたり、質問もされたり積極的に応じて頂ける
- 仕事をしている感じがする
- 継続した検査値の推移で薬の効果が上がったり患者様のコンプライアンスが良かった事等が予測されます。服薬投与にも大変役立ってます
- 患者さんと検査値について一緒に考え、コミュニケーションをとっていくことで信頼につながっていくと思う
- 患者さんが検査値について意識を高めることによって生活改善が期待できる
- CRE値の記載はとても役に立っています。薬の変更や減量になる事があるから
- 腎機能の値がCCrなので、eGFRも載っているとより良いなと思いますが、目安にはなっております。
- 薬の効き目の程度や副作用有無の確認に役立つことが多い
- 腎機能の異常が多く、食事指導を行っている。
- 服薬指導の幅も広がり、より具体的に指導を行える。
- 検査値が分かると、副作用発現の有無も確認できる。

Q5-3

- 腎機能や肝機能の状況もわかる。
- 服薬指導に活用できる。
- 検査値があれば、薬局薬剤師でも副作用を未然に防ぐことも出来ることもあるので良いと思います。
- 定期薬が長期で変わってない場合、適切かどうかあいまいな点がはっきりする。
- 副作用・効果の有無、腎機能なども分かるのでより細やかな監査ができる。
- 患者さんの状態を把握でき、それに沿った生活指導、服薬指導ができる
- 客観的、具体的な値があると適正量がわかりやすく病態が予測しやすい
- 効果の有無の判断の手段として使える
- 副作用発現の有無、用量の判断ができる
- 検査値の推移がわかるので、次回患者さんにどのような生活指導をしたらよいか、又副作用がでていないかのチェックができるし、薬剤の量が適正か判断する上で役立っている
- 本人様から多くのことを聞きださなくても（聞いても答えられないこともある。ご高齢だとDr.と何を話したか覚えていないこともある）ポイントを絞って指導できる。副作用の有無や効果の有無を確認できる
- 処方に変更になっている時、来局されたのが代理の方などで処方変更が正しいのかどうか不明の場合、検査値が手掛かりになる事がある
- 患者さんの状態の把握
- 潜在的な患者の健康状態を知る事ができる。

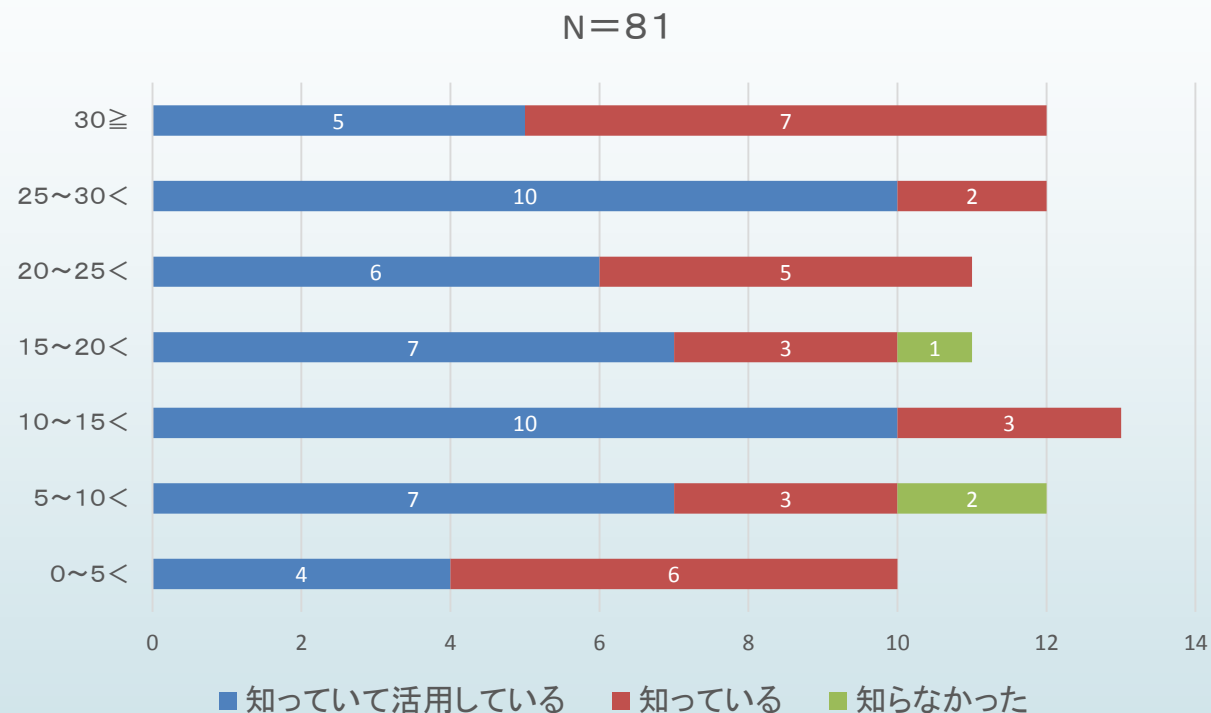
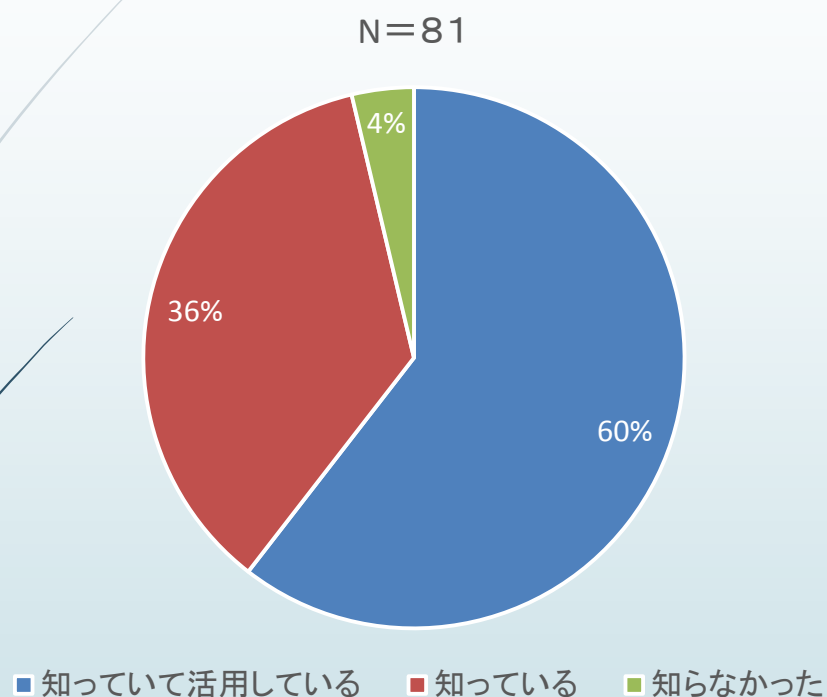
Q5-4

薬剤服用歴管理指導における検査値の利点



Q6

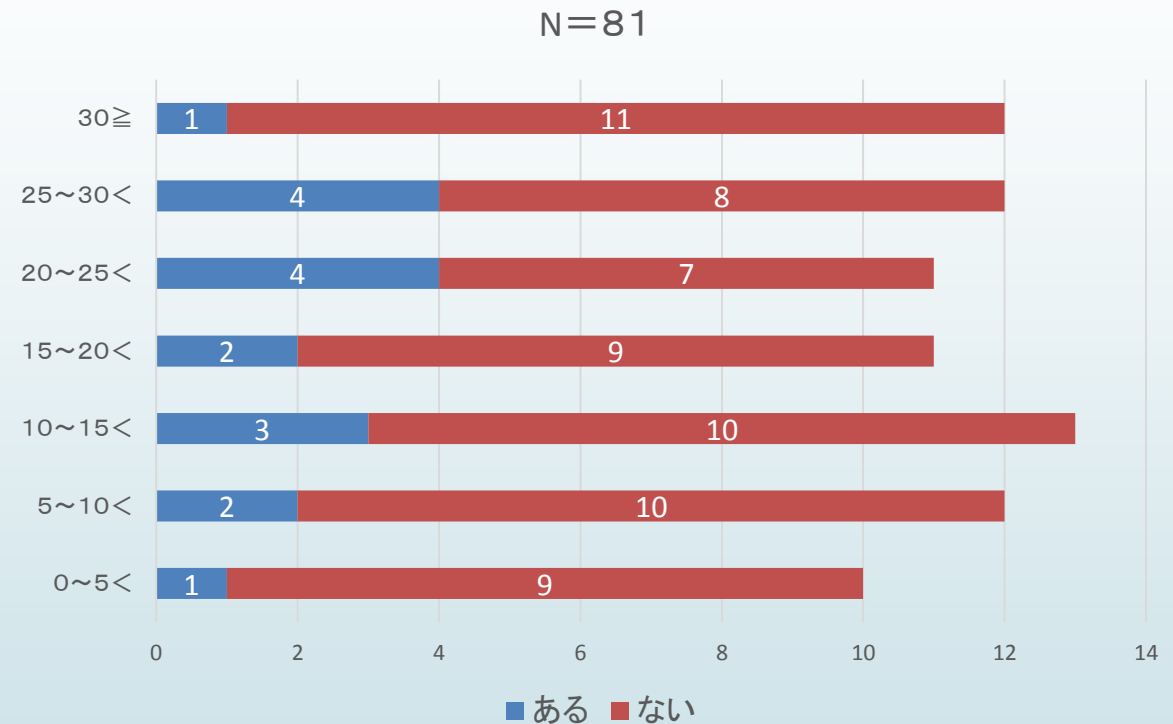
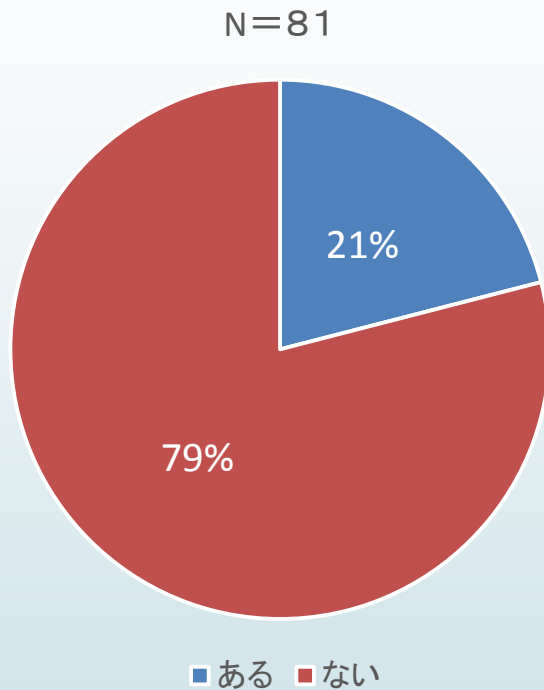
マツダ病院の院外処方箋には、患者の検査値が添付されている事をご存じですか？



マツダ病院の院外処方箋の検査値添付は、安芸薬剤師管内ではほとんど認知されている。院外処方箋に添付された検査値は、保険薬剤師の半数以上（60%）で活用される情報である。

Q7

処方箋添付の検査値に基づいて、疑義照会を行っていますか（行った事がありますか）？

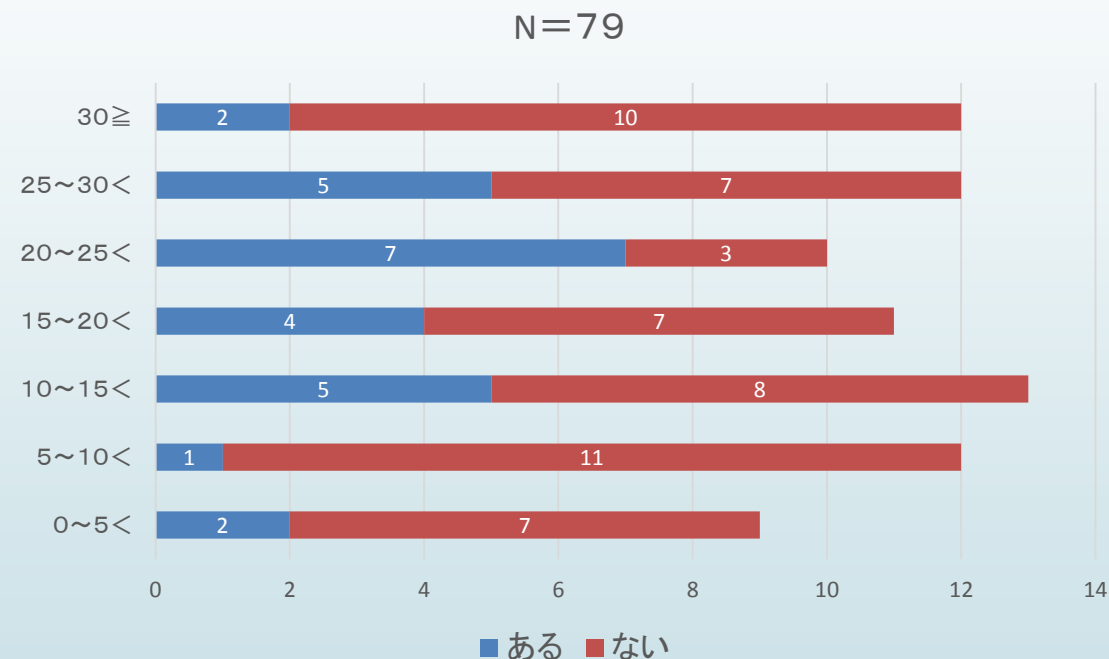
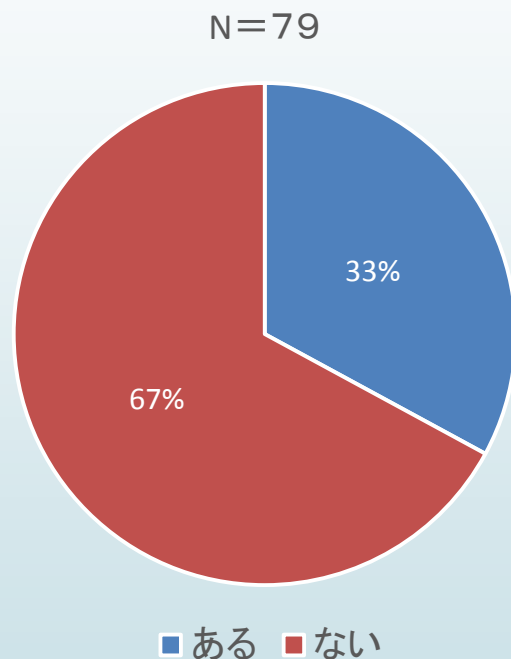


処方箋添付の検査値により、処方箋発行元に疑義照会を実施した割合は約21%を占める
臨床検査値の開示により、「適切な薬物療法」を担保するための確認を保険薬剤師は行っている

Q8

臨床検査値に基づく疑義照会や薬歴管理により患者の プレアボイド*につながった経験はありますか？

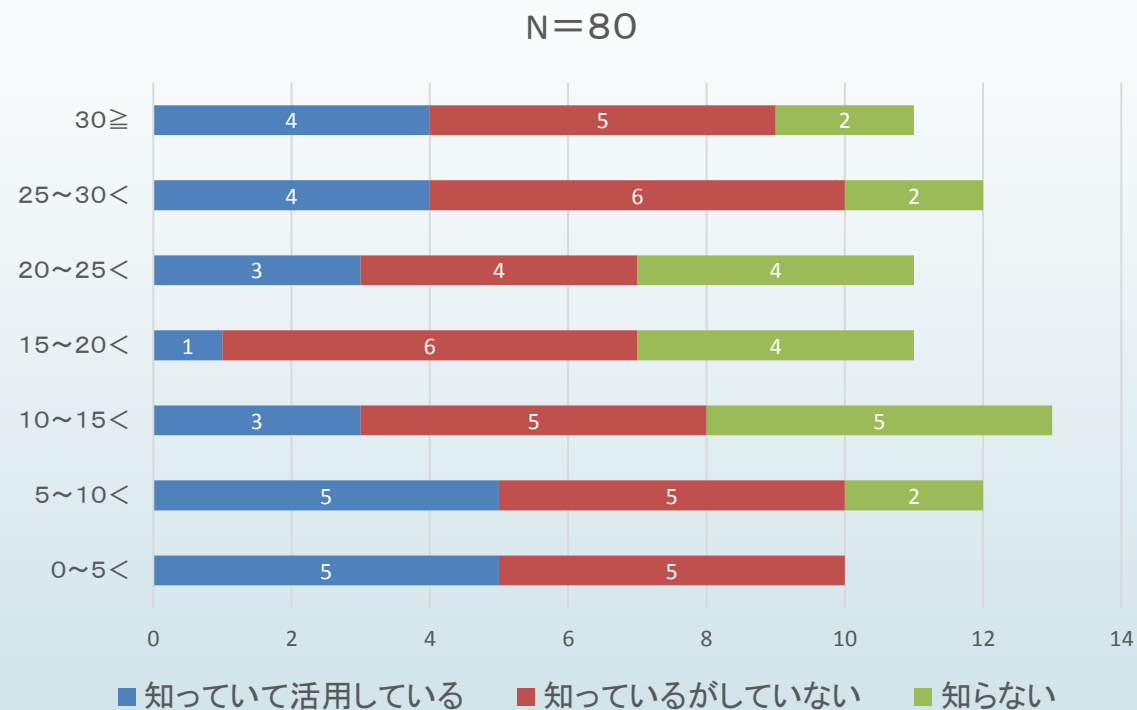
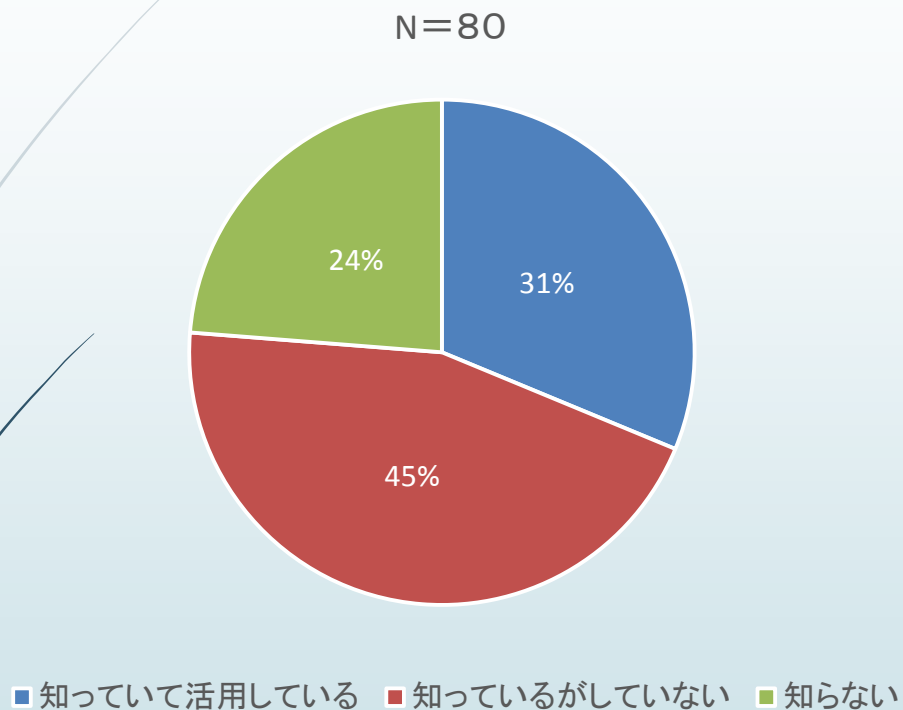
プレアボイド：「薬による有害事象を防止・回避する」という言葉を基にした造語。
薬剤師が患者の薬による不利益を回避・軽減・防止した事例



臨床検査値に基づく疑義照会により、処方変更等が行われ「プレアボイド」につながった事例は全体の3割に及ぶ。

Q9

公益財団法人日本医療機能評価機構では、プレアボイド事例を収集していることを知っていますか？



日本医療機能評価機構の「プレアボイド事例収集事業」を知らない保険薬剤が全体の1/4。プレアボイド報告が「薬局単位」であることから、薬局管理者（管理薬剤師）が代表して報告している可能性もある。

プレアボイドで、印象に残っている事例があれば、教えてください

Q10-1

- バルプロ酸錠を服用中の患者さんの検査値から服用していないことが判明した
- 腎機能悪化のエリキュースを服用患者
- 腎機能が悪い方に減量の必要な薬が処方されており、疑義照会后、減量になった。
- 腎機能悪化患者さんの減量について提案
- 肝機能異常の患者にカロナールが処方されており疑義して中止となった。
- 腎機能低下患者の減薬
- 検査値データがなく、ドクターへ問合せ。基幹病院から検査値データを入手。Kが高くセララ錠が中止
- 腎機能が悪く、eGFRが30ml/min以下の患者さんに対して減量の必要がある値があり、医師と面談し中止になった。
- C Cr=10の人、ファムビルの減量。ネシーナ→トラゼンタの変更
- アスベリン散5倍量の指示（アスベリンDS2%とアスベリン散10%の規格勘違いと思われる）
- ウルティプロ処方患者、聞き取りにより他院にてスピリーバ、アドヒア使用中、ウルティプロ処方中止となった。

Q10-2

- 他院ですが（マツダ病院にもおかかり）ベザフィブラート徐放錠400mg/日の処方が腎機能障害 CC r 低く200mg/日に変更になりました。
- カリウム製剤服用中の患者がK値が基準値を大幅に超えているにもかかわらずそのまま処方→疑義照会により中止（マツダ病院処方ではない）
- サラゾスルファピリジン腸溶錠と普通錠の薬効。重複投与。
- メイアクトMSが禁忌の患者さんに処方されたメイアクトMSを疑義照会で変更してもらった。（他の系統の抗生剤に）
- 80歳男性、ずっとワーファリン（1）2T1×とシロスタゾール（100）2T2×を服用されていたが、前回ワーファリン（1）2Tが中止になっていた。今回ワーファリン（1）が再開され、前回中止になっていたにもかかわらず2.5Tと増量されていた。INRを確認すると1.11と低かったので、ドクターが中止したのを忘れてワーファリン増量したのではと疑義照会をしたらワーファリンが中止になった。
- 82歳男性 泌尿器科 膀胱炎とのことでレボフロキサシン500mgが1日1錠7日分処方（CRE0.92 正常 体重 48.5kg 計算するとCLcr42.5だった）。レボフロキサシンはCL c rが50未満だと2日目から0.5錠（250mg）投与の方がとCKD診療ガイドに書いてあったので念のために疑義照会したところ、1日目500mm 2日目以降 6日間 0.5錠（250mg）に減量になった。
- 腎機能低下の為 ロキソニン→カロナール メマリーOD錠（20）→メマリーOD錠（5）2T ジャヌビア→トラゼンタ クラビット（500）→クラビット（250）

Q10-3

多くの保険薬局薬剤師が、プレアボイドにつながった出来事を経験されている。

プレアボイドのうち、「検査値」に基づいて対応された報告が多くを占めていることが分かった。

臨床検値は、患者薬物療法の「安心・安全」を提供する為に、非常に重要な情報であったことが示された。

処方箋の臨床検査値添付について、問題点・疑問点・要望等があれば教えてください

Q11-1

- 薬剤師には処方権がないので薬局に相談しても仕方ないと患者は思っているのではないのでしょうか
- 院外処方せんに検査値が添付される場合、検査値の動向がわかるよう統一してほしい
- 患者さんの身長体重が不明のことが多いので、クレアチン値に加えてクレアチンクリアランス値を表記していただくと助かる。
- FAX処方箋の対応で、薬をとりに来られるまでに疑義があれば照会できるので疾病に応じた検査値も知りたい
- 必要な検査値が添付されていないこともある
- 脂質系の値（LDL, CHO, TG）疾患によってはCRPなどもあるとよい
- 検査値は確認済で了承の用量なのかどうか疑問の時がある。疑義照会を躊躇することがあるので検査値確認済等のコメントがあるとよい
- 前立腺がんの方にPSA、甲状腺の方にT-3、T-4等特定の疾患の方の検査データがあれば記載していただきたい。
- 体重や身長がわかれば記載していただければ体表面積の計算ができるため、お願いしたい（患者さんによっては不明の回答がある）
- 尿酸値やカルシウム、eGFRの項目があるとより良い服薬指導ができる

Q11-2

- クレアチニン値のみではクリアランスが計算できないので、体重もしくは推算CCrをのせてほしい
- 検査値の種類をもう少し幅を広げてもよいのではないかと思います。例えばTC, HDL, LDL, TG、尿酸値、血糖値等があると助かります。
- HbA1cも項目はありますが、毎回記載して欲しいです。検査していない場合は仕方ないですが。
- 背中の中の痛みのためビーソフテンローションが処方されたが、背中に十分に手が届かないため使用するのが難しいと言われたので、同成分のヘパリン類似物質外用スプレーに変更してもらった。
- 検査値それぞれの意味、どの程度の異常値の時に疑義照会が必要か知りたい。
- Seg実数、Neutro実数はどういう活用をするのか知りたい
- 基準値を外れている場合に問い合わせが必要な値の目安を教えてください。
- 患者の了解が得られたら、正確な病名の記載も検討いただきたい。患者本人（家族）が病識が低いために得られる情報にも限界を感じる場面もある。
- 異常な検査値でも処方が発行されている場合、分かった上で処方しているのか見逃しか判断できない。もし分かった上で処方してるのであれば、コメントがあると助かる
- 体重をぜひ載せて下さい（CCrの計算に必要なため）
- 体重の添付があった方が小児量 CCrの計算がしやすいです。

Q11-3

- コレステロール値が尿酸値を是非添付してほしい。これらを下げる薬の量などの変更時に確認したいので。現在は患者さんをお願いして検査数値がすべて載っている用紙をわざわざみせてもらっているので、手間がかかっている。
- 広島市民病院血液内科にかかっておられる患者さんで、クレアチニンの検査値が高いのに、ずっと同じ薬が処方されています。
- UAとコレステロール値が載っていないので、その都度患者様に聞いています。答えたくない方や理解していない方もいらっしゃるので・・・気になる人ほど知らせたくない傾向にあります。「薬局への開示を望まない方は・・・」と書いてあるからといって手で破ってなんとか処方せんが原型をとどめている方も中にはいらっしゃいます。
- 腎機能が低下している患者さんに抗生剤や抗ウィルス薬が常用量で出ていることがありますが、どの程度なら疑義してよいのか分からない。
- 血液検査はどういう人が対象で行っているのですか？また、その周期は？また検査項目のチョイスはどのようにしてきめておられるのですか？
- 体重測定はどのくらいの目安で行っているのですか？添付していただくことは難しいですか？
- 血液検査結果のHがついていて疑義が必要となる数値の目安（各項目について）
- eGFR値を記載してほしい（体重を聞きにくい。早く投薬してあげたい）
- AST,ALT(肝) 値 肝機能障害時の数値（具体的に）
- その他、検査名と検査結果の活用法（病院としてこの検査値を公表した理由またはどのように活用してほしいかを教えて頂きたい）
- 今公表している検査結果を全て活用しきれていないと思います。

検査値添付に関して要望が多かったもの

- ▶ 推算CCr値、eGFR値を検査値に加えて欲しい
- ▶ 身長・体重（が病院で計測されているのであれば）を検査値に加えて欲しい
- ▶ 他の検査値も標記してほしい
（Ca値、Mg値、T3値、T4値 等、薬物治療の適正化に寄与する検査値）
（LDL値、TC値、随時血糖値、UA値 等、治療判断に準じる検査値）
- ▶ 問合せをするべき異常値について（AST、ALT等）
- ▶ 検査値の活用法（Seg値、Nutoro値）

「処方箋への検査値の添付」については、今後、更に多くの医療機関が取り組みを始められる可能性がある。

安芸薬剤師会は、検査値添付に先駆的に取り組んでこられましたマツダ病院と更なる連携に取り組む、患者さんに安心・安全な薬物療法を提供できる薬剤師のスキルアップに取り組んでいきたいと考えております。

この場をお借りして、アンケートに回答して頂きました保険薬剤師の皆様に感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。